

松井 芙美 氏の学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：上野 博夫、蔦 幸治

樹状細胞（DC）は抗原提示細胞として働くとともに免疫反応を正・負の両方向で調節する細胞である。松井氏は DSS 誘導大腸炎モデルにおいて PIR-A/B 陽性 DC が誘導され、炎症を抑制する機能をもつことに着目し、PIR-A/B 陽性 DC 細胞の *in vitro* 誘導法および抑制機能を検討した。その結果、マウス大腸由来 DC を単離し、GM-CSF および IL-1, IL-6, TNF α , LPS を添加した培養によって PIR-A/B 陽性細胞が出現し、免疫調節因子である IL-27 を産生すること、アロリンパ球混合反応において IL-27 を介して抑制すること、さらに養子移入することによって DSS 誘導大腸炎を抑制することを示した。また、潰瘍性大腸炎患者の大腸粘膜にヒト PIR-A/B に相当する CD85d 陽性細胞が存在することを示した。これらのことから PIR-A/B 陽性 DC 細胞は炎症環境において誘導され、大腸炎を抑制する機能を持つことが示唆された。本研究は抑制機能をもつ PIR-A/B 陽性細胞の *in vitro* 誘導法を確立し、臨床応用への展開が期待されることから学位に値する研究と判断された。